

「皇民化政策」・戦時動員				
出版社	頁	項目名	記述	コメント
大阪書籍	195	強まる戦時体制	(略) また、朝鮮では、神社をつくって参拝させたり、日本式の姓名を名のる「創氏改名」を強制したりして、日本に同化させる皇民化政策をおし進めました。	「姓名」は「氏名」の誤り。「創氏改名」については、【総論】参照。
	200	国民生活への影響	(略) 兵力を補うために、大学生などを徴兵し、朝鮮や台湾でも徴兵制を実施して日本の軍人として戦場に送りました。また、不足した労働力を補うために、兵役についていない50歳までの男性を軍用工場などに徴用し、若い女性や中学生なども工場や農村へ勤労働員しました。さらに、朝鮮や中国の占領地から数十万人といわれる人々を強制的に動員して、鉱山や防空壕づくりなどに働かせました。	
教育出版	167	皇民化政策	朝鮮人に対しては、日本人に同化させようとする皇民化政策がいつそう強められました。日本語の使用や日本式の氏名にあらためること[注②]がおしすすめられ、神社への参拝が強制されました[注③]。 [注②]このことを創氏改名とよびます。 [注③]このような政策は、台湾でもすすめられました。	「同化」政策は、このときに始まったものではない。「同化をより強めた」というのが正確。そして、それを強めた形態が「皇民化政策」なのであって、この文では「皇民化政策」が植民地初期から存在していたかのように読め、適当ではない。【総論】参照。
	172～ 173	戦争と国民生活	(略) また労働力の不足をおぎなうため、朝鮮や中国から多数の人々が日本に連れてこられて、工場や鉱山ではたらかされました。多くの朝鮮人や中国人が、きびしい労働条件のもとで苦しい生活をしいられました。	【総論】参照。
	173	朝鮮と台湾	朝鮮や台湾では、戦争末期に志願兵制度があらためられ、徴兵制がしかれました。多くの人々が「日本軍兵士」として戦場に送られ、また、多くの朝鮮人女性なども工場などに送り出されました。	【総論】参照。

清水書院	203	戦争と近隣諸国	さらに朝鮮や台湾にも徴兵制をしいて日本兵として戦争に動員した。国内の労働力不足をおぎなうために朝鮮人や中国人を強制的に連行し、炭鉱や鉱山などで働かせた。(戦時下の朝鮮)植民地とされた朝鮮では、ハンゲルの改良や歴史の研究などによって文化面で日本の支配に抵抗した。日中戦争がはじまったころ、総督府は日本語の使用を強制し、伝統的な姓名にかえて日本式の氏名をつくらせて、公的な場ではこれを使わせるようにし、神社への参拝も義務づけた。この日本の皇民化政策は、長い歴史をもつ朝鮮の文化や社会を根本から破壊するものであり、朝鮮の人びとは深いいきどおりをもった。	「(戦時下の朝鮮)」以下は、一字下げでミニコラムのような形。文化面での抵抗の記述や、「朝鮮の文化や社会を根本から破壊するものである」とあるのは、一步踏み込んだ記述と言えるが、文化面での抵抗云々のくぐりや戦時下の事例とはいえない。【総論】参照。
	204～205	[深める歴史10]戦争と民衆と	<p>◆植民地や占領下の民衆と戦争 日本が植民地としたり、侵略し支配したりした地域は、台湾や朝鮮、中国、東南アジアなどのひろい地域にわたりました。(略)朝鮮や台湾には徴兵制がしかれ、それぞれおよそ20万人、2万人が太平洋戦争に動員されました。また、日本本国や樺太などへ労働力として強制的に連行された人びとは、植民地であった朝鮮から約72万人(1939～45年)、占領下にあった中国からは約4万人(1943～45年)にのぼるといわれています。</p> <p>◆戦後補償の課題 徴兵制や強制連行などによって、戦地に送られたり、過酷な労働を強いられたりしたのは男性だけではなく、女性も含まれていました。さらに広島・長崎で被爆した朝鮮人、日本軍として占領地で終戦をむかえ、戦争犯罪人とされた朝鮮や台湾の人びともいました。こうした人びとのなかには、個人の立場から日本政府や企業などに謝罪と補償をもとめている人もいます。</p>	
帝国書院	209	植民地・占領下のようす	<p>戦争が激しくなると、日本は総力をあげて戦争を進めるため、植民地であった朝鮮や台湾の人々を「皇国臣民」とする、皇民化政策を行いました。学校では、「国語」として日本語が教えられ、朝鮮語や中国語の使用が禁止されました。また、皇居に向かって敬礼するなど、天皇への崇拝も強制しました。さらに朝鮮では、日本式の名前を名のらせる創氏改名[注①]も行われました。日本国内で労働力が不足すると、企業などで半ば強引に割りあてを決めて朝鮮人や中国人を集め、日本各地の炭鉱、鉱山などに運び、低い賃金で、きびしい労働をおしつけました。</p> <p>[注①]名前をかえるだけではなく、夫婦が別姓の朝鮮の人々にとっては、同姓を名のることにもなり、日本の家族制度が朝鮮にもちこまれることになりました。</p>	<p>「国語」として日本語が教えられしたのは、この時期にはじまったことではない。注で創氏改名の説明として、家族制度の改変について触れている点は、創氏改名の性格を理解するうえでも重要。ただ、「夫婦が別姓」とあるのは今日日本で話題になっている夫婦別姓問題とは異質のものであるので、可能であれば、本貫や族譜の説明などと一緒に記してあるのがよいか。【総論】参照。台湾の説明が弱く、バランスに欠ける。また、「中国語」(漢語)のみならず、台湾語の問題についても触れるべきか。</p>
	210	戦時下の人々のくらし	(略)日本が不利な情勢になると、それまで徴兵されなかった大学生たちも戦場に出かけていきました(学徒動員)。また、台湾や朝鮮でも徴兵が実施されました。	

東京書籍	189	強まる統制経済	(略) 朝鮮では、「皇民化」の名のもとに、日本語の使用や朝鮮の姓名のあらわし方を日本式に改めさせる創氏改名をおし進めました。さらに、志願兵制度を実施し、朝鮮の人々も戦場に動員しました。「皇民化」は台湾でも進められました。	「日本語の使用～をおし進めました」の部分は文法的に不自然。 戦場への動員を言うのであれば、徴兵に言及しないのは不十分。【総論】参照。
	193	戦争の犠牲	日本が侵略した東アジアや東南アジアでは、戦場で死んだり、労働にかり出されたりして、女性や子どもをふくめて、一般の人々にも、多くの犠牲を出しました。いっぽう、日本に連れてこられて、意思に反して働かされた朝鮮人、中国人などもおり、その労働条件は過酷で、賃金も低く、きわめてきびしい生活をしいるものでした。 (略)	【総論】参照。
日本書籍 新社	199	すべてを戦争へ	(略)また、朝鮮や台湾では日本への同化を強制する皇民化政策が進められ、特に朝鮮では、日本式の姓名を名のらせる創氏改名や神社への参拝が強制された。	「姓名」は「氏名」の誤り。 「同化を強制する」のは皇民化政策期に限ったことではないので、「同化をより強めた」のような表現にすべきか。【総論】参照。 台湾の事例も一つあったほうが記述のバランスが取れるのでは？
	202	[さらに深める学習]まぼろしの大東亜共栄圏	(略)それに、植民地支配からの解放をいいながら、日本自身が朝鮮・台湾を手ばなそうとはしなかったからです。 (略) 日本国内の労働力不足をおぎなうため、朝鮮や中国の占領地からは、多くの人々が内地に強制的につれていかれました。強制連行された朝鮮人の数は約70万人、中国人の数は約4万人とされています。また軍の要請によって、日本軍兵士のために朝鮮などアジアの各地から若い女性が集められ、戦場に送られました。「大東亜共栄圏」はたんなる宣伝のためのスローガンにすぎなかったのです。	「大東亜共栄圏」がスローガンにすぎなかった点を指摘している。 「慰安婦」のことはないが、それをにおわす表現はある。
	205	ほしがりません 勝つまでは	(略)さらに、兵力不足のため、これまで徴兵を延期されていた大学生も軍隊に召集されるようになり(学徒出陣)、1943年には朝鮮に、1944年には台湾に徴兵制がしかれた。	【総論】参照。
日本文教 出版	176	[日中戦争と国民生活]植民地への統制	植民地の台湾や朝鮮では、兵士の募集がはじまり、宮城(東京の皇居)や神社に向かっておがむことや、固有の姓名を日本式に変えさせられた(創氏改名)。植民地の人々は、戦争下において、「天皇の民」にふさわしい、皇国の臣民となるように同化を強要された。	兵士の「募集」が志願兵のことか徴兵のことか曖昧。 他にも「天皇の民」と「皇国の臣民」は同義語の反復。前者のみでよいか。 神社参拝の強要(と抵抗)には触れられていない。 文法的には、「台湾や朝鮮」で「創氏改名」がおこなわれたように読め、不正確。【総論】参照。
	183	[アジアと太平洋での戦争]日本の戦争とアジアの人々	日本は、この戦争を、欧米の植民地からアジアの民族を解放するための戦争と位置づけ、大東亜戦争とよんだ。しかし、植民地の独立を認めず、占領下の住民を労務者として徴発した。朝鮮から約70万、中国から約4万の人々が労働力不足を補うために日本に連れてこられ、炭鉱などで過酷な労働に従事させられた。	

扶桑社	208	国民の動員	<p>朝鮮半島では、日中戦争開始後、日本式の姓名を名乗らせる創氏改名などが行われ、朝鮮人を日本人化する政策が強められていた。戦争末期には、徴兵や徴用が、朝鮮や台湾にも適用され、現地の人々にさまざまな犠牲や苦しみをしいることになった。また多数の朝鮮人や中国人が、日本の鉱山などに連れてこられ、きびしい条件のもとで働かされた。</p>	<p>経緯の説明に際し、「日本人化する政策」では、「同化政策」(p.171)との質的な差異が見えてこない。「日本式の姓名を名乗らせる」というのは「創氏改名」の説明としては正確ではない。【総論】参照。</p> <p>また、細かいことではあるが、「中国人」は「国民」ではなかったため、「国民の動員」という項目名は検討を要する。</p>
-----	-----	-------	---	---